どぅして??

颯

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
どぅして？？

【Ｎコード】
Ｎ５３６８Ｅ

【作者名】
颯

【あらすじ】
友達からだんだん恋にかわっていったぁたし達…でもどぅして？どぅしてぁなたは突然来なくなったの？

第一わ★［出会い］

初めて彼に会ったのは学校の廊下だった。
彼は突然あたしを睨んだ。
あたしはあの時の目を今でも忘れられない。

あの時彼はあたしを知っているのか知らないかはわかんないけどあたしは知ってたよ？

だからあの時は怖いって思いより嬉しかったんだよ？
初めて…あたしのことを初めて…あなたのその綺麗で真っすぐな瞳で見てくれたから…

嬉しかったんだよ？
本当に…
本当に…
夢に出てくるぐらい。

嬉しかったんだよ？彼の名前は智～トモヤ～
あたしは二葉～フタバ～
あたし達の出会いは廊下だったんだ。
そうあの時、あの時会わなければ会っていなければあたしがこんなに悲しくて切なくて心が痛むことは無かっただろう…

智とあたしが仲良くなるのにそう時間はかからなかった！
自分で言うのはなんだかあたしは明るい性格だ！
だから友達も作るのも得意だし友達も多い！

今思うとだからこそ友達になれたのかも知れないなぁ～と思う！
智は中学1年であたしは3年！
あたしと智の関係は簡単に言ってダチだ！
一緒遊んだり一緒に屋上でサボったりすることが一番多い！

でも最近は智が家に来て遊ぶのも多くなった！
家に来て犬と遊んだり、智のダチとあたしの大大大親友と遊ぶのだ！
あたしの大大大親友とは佐藤麻耶！小学校のころからの仲だ！！
でも中学は違う…←←

そして智のダチとは……いっぱいいる…
てゆうかいすぎ！！
あたしだっているよ！
いるけど…
あいつには負ける……！

そのなかでよく遊ぶのは植村時ことトッキー、村井虎男ことムムちゃん、安藤星ことセイ、田浦慶ことケイたん、そして年子で同い年の兄、秀ことシュウ！
この5人だ！
みんなあたしにとって可愛い弟？みたいだ！

あたしの卒業式まで後3週間。

卒業する前いっぱい遊んどこうと毎日のように遊んでいる！
あたしは彼らと出会う前は学校には週３日いや３日も行ってなかったかもしれない。
行っても３時間目ぐらいだに家を出る。
まぁ家から１０分で着いちゃうけど…
正直授業はつまんない！
だからあたしは屋上でサボるのが大好き！
でも智に出会って少し変わった！
一緒にサボったりはするけど出なきゃいけない授業は出るようになった！　時々つくづくこんなこと考える！

こんなこと考えてたら智がきた！
『おーぃ！二葉～次俺英語なんだ～！一緒にサボろうぜ』
『智！いーよｖＶあたしも次英語でサボろうと思ってたぁ～！』
『じゃあいつものとこ行こうぜ！』
『うん！』

第2話　屋上

ーーーー屋上！！ーーーー
『やっぱ屋上は涼し～』
『だなっ！！！（ニコッ）』
（か…可愛い）
『…犯罪級だよ。その顔…（ボソッ）』
『あー？何か言ったか～？』
『なっなんでもないよ！』
『そうか～？』
『うん！てかもう英語おわっちゃうよ。』
『えっもうそんな時間！？』
『うん』
『？？？まだいたいの？？』
『うん。』
『あー次テスト何だよね～俺』
『あっいいょいいょ！！！智は行って！！！』
『…わかった！ぢゃぁまたな！！！』
『うん！またね！！』
『はぁ～行っちゃった』
あたしは智が好き。
それはついこないだ気付いた。
智に彼女出来たからだ。
それを聞いてあたしは智が好き何だと気付いた。それから少しして智は彼女と別れた！原因はあたしらしい！智が彼女よりあたしと会っていたのが原因らしい…。彼女さんから聞いた話によると智が彼女さんよりあたしが大事だからって言ったらしい！智にしては友達として大事と言ったのだろうが、ちょっとは期待してもいいってことかなぁー！！？？

そんなことを考えてたら。
〜〜ガチャ
『！！誰？』
『あっ二葉！！』
『智！？何でここにいんの？？？テストわ？』
『腹痛いっていって抜けてきた（笑）』
『アハハハハ！！ぁりがとー』
『ォゥ！！』
『…ねぇあのさあたしが原因で彼女と別れたって本当？』
『？？！！何で？そんなわけないぢゃん！！』
『彼女さんから聞いた。』
『ぁぃっ〜！』
『ねぇ本当なの？』
『えっとそのあの〜』
！！！ガチャ！！！
『オーお前らここにいたのか〜』
『秀！！あっ二葉俺ちょっと用事思いだしたからまたな！！！』
『はっ？？！！何なんだよお前！！俺お前ら探してたんだぜ！！』
『ごめん！！ぢゃな秀！！』
『はぁ〜何なんだよ！』
『…逃げんぢゃねぇよ！！！（二葉です。）』
『……はぃ（泣）』
『…おっ…ォィ智！！！！何で二葉切れてんだよッ！！！お前だってしってんだろ！！！！二葉が切れると学校1強いお前でも勝てないこと！！！！』
『……知ってるからおとなしく言うこと聞いてんぢゃねぇか！！！！しかも俺学校1強いとかいって二葉には勝てねぇってことは2ぢゃねぇかょ！！！』
『あっそうか！！（笑）』
『笑ってる場合ぢゃねぇよ！！きれちゃったよ〜（泣）』

『アララ（笑）』
『おもいっきり他人事ぢゃねぇか！！！！兄弟だろ！？俺ら！！（泣）』
『俺関係ねぇ～』
『何さっきからこそこそ言ってんだょ！！智！！こっちこい！！！！
（何度も言いますが二葉です。）』
『……はぃ（泣）』
『ぢぁー俺は失礼しまーす。』
『秀お前もこいよー（泣）』
『やだぁ～』
『二葉のことでさんざん協力したろ！！』
そう。秀は二葉が好きなんだ。気付いてないのは二葉だけだけど…
『……わかったょ～』
『ぃぃよ。秀もおいで！』
『／／／／はぃ』
『何顔赤くしてんだー！！』
『／／／／ぅるせぇー！！』
『早く座んなよ！！』
『……はぃ（泣）』
『秀も座んな？？』
『ぅん！！』
『もう1度聞くよ？何であたしが原因で別れたの？？』
『……』
『早く言ったほうが自分の為だよ』
『早くイっちまえょ！！』
『……』
『早く言えっていってんだろ！！！！！』
『はぃ（泣）二葉が原因とかぢゃなくて俺がぁぃっより二葉と会ってたからです！！』
『はぁ～。ちゃんと謝った？？』

『うん』
『ぢぁー許してあげる！！』
『本当？』
『うん』
『良かったー！！二葉大好き！！』
『あたしもー！！』
こーゅ軽くならしょっちゅう言ってんのに何で告れないんだろ（泣）
『あのーお二人さん？？俺のこと忘れてない？？？』
『ん～？？忘れてたー』
『二葉～（泣）』
『あはは！嘘！嘘！秀も大好きだょ！！！』
『／／／／』
『お前何顔赤くしてんだー？？？（笑）』
『／／／／わかってるくせに言うんぢゃねぇ！！！！』

第3話！！秀の告白

『そー言えば秀何であたし達を探してたの??』
『あっそーだった!!やっべ!!ぁぃっら待ちぼうけぢゃん!!』
『ぁぃっらって誰だ??』
『星達だょ!!』
『嘘!!まぢ??久しぶりだ〜!何処にいんの??早く行こ〜』
『体育館でバスケしてたよ!四人で（笑）』
『ょし!!行くかッ!』

体育館

『おーぃみんなー!!』
『『『『二葉!!』』』』
『久しぶり〜!二葉〜』
『慶ちゃん!久しぶり〜』
『久しぶりだな!二葉!』
『星!!久しぶり!!』
『おひさ〜!!二葉!!』
『トッキー!久しぶり〜』
『その呼び方やめろって!』
『ぇ〜ぢぁー久しぶり時!』
『おぅ!』
『ちょっと長いよ!!トッキー!!久しぶり〜二葉〜!!大好き〜』
『ムムちゃん!!久しぶり〜ぁたしも大好き!!』
『また買い物行こーね!』『ぅん!行こ〜!!』

『久しぶり～二葉★』
『秀??さっきからあってんぢゃん!!』
『久しぶりは言ってなかったから!』
『そっか～言ってなかったか～久しぶり～』
『ぁぃっ全体二葉と話たかっただけだぜ!!』
『全体そーだょ!!』
『／／／／ゥルせーんだよ!!お前らまでばかにしやがって!!』
『『『アハハハハ』』』
『ところで何で遅かったんだよ??』
『ぇッと～それは～』
『二葉が切れてたから。』
『秀!!（怒）』
『すんませーん!!』
『『はぁ～何でだよ!!』』
『二葉??なんかあったの??ぁの二人になんかされた??』
『大丈夫!!』
『俺ですよ俺!!』
『智??又なんかやらかした??』
『!!何でもないょ!!もうぉ昼ご飯の時間だ!!ムムちゃん一緒に買いに行こ～』
『いーょ!!』
『あっ俺も行く!!』
『みんな～買ってくる～』
『俺梅!!』
『俺パン!!』
『俺おかしのチョコ系～!!』
『わかった!!』

――コンビニ――

『エート星が梅、時がパン、智がおかし、と！！』
『ムムちゃんわぁ？』
『ん～俺はツナマヨ三個！！』
『ん～ぁたしどーしよ～かな～秀わ？？』
『俺はおかし～！！』
『まったく、本当兄弟そろっておかし！！だからそんなに細いんだよ！！』
『そーか？？』
『そーだょ！！！』
『ぁたしはチョコ！！』
『二葉もぢゃん！！』
『ぁたしはぃーの！！』
『みんな決まったし買うか！！』
『うん！！』

『ょし！！買ったし帰るか！！』
『うん！！』
『あっごめん！！先帰って！俺買い忘れあった！！』
『わかった～』
『ぢゃ先帰ろっか！！』
『うん！！』

――そのころ体育館――
『今日秀二葉に告るらしいぜ！！』
『まぢかょ！！てか二葉って智が好きぢゃん！！』
『ォィ！！智に聞こえんだろ！！』
『大丈夫！大丈夫！トイレ言ったぢゃん！！』
『もし聞いてたら二葉に殺されるぞ！！俺関係ないからな！！』

『まぁなぁ――！！』
ガラッ
『お前ら～覚悟は出来てんな～？？』
『『あっ～誰だよ！』』
『ちゃんと顔みよーね』
『『二葉～～～！！！！！』』
『俺はちゃんと言ったんだよ！！言ったんだけど…』
ゴンッ
『～～～～って！！』
『星はこれで許してあげる～』
『ありがとうございます』
『時？何処に行くつもり？こっちきな！』
ゴンッ　ゴンッ　ゴンッ
『～～～～ってー！！！！！』
『うるさぃ！！てか秀がぁたしに告白ってどーゅことかな？？』
『そーだょ。俺二葉に告白する。』
『秀！！いたの？』
『うん。／／二葉上行こ？』
『わかった。』
ガラッ
『ぁれー二人とも何処に行くの？？』
『上。』
『何しに？？』
／／／告白しに。』
『ええぇぇー？？』

――――屋上――――

『あのさ、さっきも言ったけどさ、俺…二葉のことずっと好きだったんだ』

『でもぁたし…』
『わかってる…智が好きなんだろ??』
『…ぅん。だから秀とは付き合えない。』
『俺は…俺は二葉が好きになるまで待つ。』
『っでも』
『俺は大丈夫。二葉は俺達のこと可愛い弟…とでも思ってんだろ??でも俺は違う。二葉のこと姉ちゃんって思ったことなんて1度もない。だから俺のこと男としてみて。返事はまだいいから。』
『わかった。返事は明日するから。明日秀ん家に行く。』
『わかった。』

―――――体育館―――――

『ぁぃっまぢ??』
『みたいだな…』
『お前らだから言うけど俺さんざん秀に協力したけど二人が付き合うのは嫌だ。薄々だけど俺気付いてたんだ。二葉が俺のこと好きだって。二葉分かりやすいから。だから協力しても心の何処かで俺…秀には望みないって思ってたんだ。だから気付かなかったんだ。俺は俺は…二葉が好きだ。』
『まぢかょ…兄弟そろって同じ人を好きになったのかよ…』
『俺この中で一番二葉と買い物行ったりして遊んでッから分かるけど告るなら早くした方がいいよ…二葉いつもいってた。『智には告るつもりはない。今の関係が壊れたらぁたしどうすればいいか分かんない。ぁたしが智に告白することでみんなに迷惑かける気がする。ぁたしは卒業するからいいよ。
だけどその後みんな気まづいでしょ??ぁたしだったら気まづいもん。
だから全体智には言わない。
だからねぁたし次告白されたら誰でも付き合う!!そしたら智のこと忘れられるでしょ????』って　だから俺言ったんだ。『二葉

が告ることで迷惑なんて誰も思わない。だから大丈夫だよ??』でも二葉『ぁたしね智が好きって分かった時誓ったの。この思いは全体言わないって。だからいいんだ!!』俺なんも言えなかった。『ぢゃあ二葉秀と付き合うんぢゃ…』

『かもしんない…だから早く言えって!』

『分かった。明日二葉に言ってみる!』

第４話☆返事＆ａｍｐ；告白！

『はぁー。どぅしょぅ…。』
ぁたしは何で迷ってんだ？ぁたしは智が好き何だよ？どうしちゃったんだろう…ぁたし。迷うのは不思議なことではぁ…だけど…
『ぁー。もぅ！！麻耶に相談しよう！！』コン　コン
『はーぃ！！』
ガチャッ
『二葉～！！久しぶり～！！！どぅしたの？？』
『麻耶～』
『とにかく入んな？？』
『ぅん。お邪魔します。』
『汚くてごめんね～！！で、どした？？』
『ぅん。ぁのね…ぁたしさっき秀に告白されたの…』
『えっ…』
『でもぁたし智が好きだから付き合えないって言ったんだ。けど待つからって。明日返事出すつもりだけど…正直悩んでる。何でかわかんぁ。ぁたしは智が好きなのに…あの時の秀の顔が頭から離れない。』
『…そうだったんだ。二葉に言ってなかったけどぁたし何度も秀に告白してんだ…いつも駄目だけど…』
『えっ…まぢ。ごめん。ぁたし帰るね。』
『二葉！！ぁたしのこと考えないで好きな人と付き合って！』
『……ぅん。ぢゃ。』
ガチャ
『ごめんね二葉。やっぱりぁたし二人が付き合うの…やだな―…』
『ぁたし…ど…しょ。も…やだょ。グスッ』

『『ぁれ〜二葉〜？？？』』
『えっ？？…みんな…』
『どぅした？？！！何で泣いてんだょ？？！！』
『ふぇっ。星〜！！』
『へっ？？二葉？？』
『とりあえず俺ん家行こ？？』
『や…だ。』
『何で？？』
『秀…思い…出すから。ぁ…たし…あの…時の秀の顔…が頭…から離れ…ないの。も…どうしたらぃぃか…わかんない。』
『ぢゃ二葉ん家行こ？？』
『…ぅん。』
『後ろ乗る？？』
『ムムチャンの後ろ。』
『俺？？ご指名されちゃった！！慶ちゃん降りて？？』
『ん。』
『行こっか。』

――二葉の部屋――
『で？？何があったの？？』
『…さっき…麻耶んとこ行って…相談したの。そしたら…そしたら』
『そしたら？？』
『麻耶…何度…も秀に…告白…してんだって。』
『麻耶って秀が好きだったんだ…』
『ぁたし…どぅし…たらぃぃ…かわか…んない。』
『二葉は好き人と付き合えばぃぃ。麻耶のことや俺達の事は考えないで好きなやつと付き合え。』

『…ぅん。ぁりがとぅ。なんか勇気出てきた！そういえば秀と智わ??』
『秀は帰った。智は…帰ってなんかしてる。』（告白の内容考えてるなんて言えねぇょ！！）
『そっか。ぁたし今から秀ん家行ってくる！！』
『いってらっしゃい！！俺達ここで待ってっから！』
『分かった！行ってくる！あっ秀ん家どこだっけ？』
『そっか。二葉2～3回しか行ってないもんな！』
『ムムちゃん送ってけょ！』
『いーょー！！』
『ぁりがと！！』
『てか電話で呼んだ方がよくね??』
『ぅぅん。ぁたし秀ん家行くって言ったんだ。』
『そっか。行ってら！！』
『また後で！！』

―――秀ん家―――

コン　コン
『ぁーい。』
ガチャ
『二葉…』
『智…秀ぃる??』
『あっ今コンビニ行ってる！！』
『そっか。』
『あがって待ってれば?』『あ…ムムちゃん下にいるから。』
『何で??』
『送ってくれたの。』
『そっか…秀に何の用?』

『えッと…その』
『あっ…返事…か。』
『うん。まぁ。』
『何て返事すんだ??』
『それは『二葉??何やってんだ?』
『あっ…秀!』
『秀…』
『あのね…返事…』
『あれ??明日ぢゃなかった??』
『うん。さっきいろいろあって今言わないとまた迷うきがして…』
『そっか』
『…あたし『待った!!ここ廊下だし。智…いるし。』
『あたしは平気だょ。』
『俺が嫌だ!!』
『そっか』
『ぢゃ入ろっか。』
『うん。』
『俺どーすれば…』
『あっぢゃ下にムムちゃんいるから一緒にあたしん家行ってれば?
?道覚えたし!!』
『わかった』
『ぢゃまた後で!』
『ぢゃな』
ガチャ

『…秀』
『うん』
『あたしゃっぱ秀とは付き合えないょ。』
『……』
『麻耶から告白されてたんだって??』

『！！それが付き合えない原因か？？』
『違う！！違うょ秀！！』
『ぢゃぁ何なんだよ！！何で俺ぢゃ駄目なんだょ！』
『それは…』
『何でなんだょ…何で俺ぢゃ…』
『それはぁたしが智を好きになったから！！何で？何でもっと早く言ってくれなかったの？ぁたし智を好きになったとき誓ったの！次告白されたら誰でも付き合うって！！それはみんなに迷惑かけるから！でもみんなは迷惑ぢゃないから好きなやつと付き合えって！だから…だからぁたしは秀ぢゃなくて智を選ぶ！』
『俺は諦めない！少しでも望みがあるなら諦めない！』
『ぁたしは智に告白する！もし…もしぁたしが智と付き合ったらどぅすんの？』
『わかんない。』
『ぁたしは秀の気持ちに答えられない！麻耶のこと考えてあげて！』
『ごめん。無理だょ。麻耶のことも諦めることもどっちも。』
『ぁたしは秀の気持ちに答えらんない。ごめん。ごめんね。でもぁりがとぅ。好きになってくれてありがとう。後…ぁたしは今までどぅり秀と友達でいるから。…ぁたしもぅ行くね。みんな待ってるから。ぢゃぁね』
ガチャ
『やっぱ…駄目…か。』

――二葉の部屋――
『ただぃま！！』
『『『おかぇり―』』』

『どぅだった??』
『断った。けどいくら言っても諦めないって言われちゃった…』
『まぁその内諦めるだろ!』
『智とムムちゃんわ??』
『ぉかし買いにった!』
『そっか。あっ///ぁたしね智に告白することにしました!』
『まぢ!!がんばれ!』
『ぅん!!』
『いっ??』
『今!』
『そっか!』
(言う前に言われるって…可哀想…)
『そろそろ帰ってくんぢゃん??』
『ドキドキしてきた!!』
ガチャ
『ただぃま。』
『おかぇり〜』
『二葉』
『ぅん!』
『二葉!!ちょっといい??』
『ぅん。ぁたしもちょうど話がぁる!!』
『外に行くか。』
『ぅん』

『話って??』
『二葉先ぃぃょ!』
『…ぁのねぁたし秀に付き合えないって言ってきた。諦めないって言われちゃったけど…で!!///ぁたし智が好きなの!!///

／ぁたしと付き合って下さい！！』
『えっ…まぢかょ…』
『…ごめん。駄目だょね…』
『あっ違うんだ！！／／俺から言おうと思ってたから…。』
『／／／ぇっぢゃ』
『／／ぅん。俺と付き合って下さい。』
『はぃ！』
『ねぇ手繋いで戻ろうか！？』
『／／ぃぃょ。』

ガチャ
『『『『オォー』』』』
『『おめでとう！！』』
『／／／ぁりがと！』
『ぃーな！！俺も彼女欲しい！』
『バーカ！！お前は無理だょ（笑）』
『ムムちゃんに彼女とか似合わない（笑）』
『似合わねぇーー（笑）』
『そんなことないょ！！』『『『アハハハハ』』』
『二人が付き合ってもまたみんなで遊ぶょな？？』
『ぁたりまぇぢゃん！！』
『そぅだょ！！！』
『秀も？？』
『ぅん！ぁたし諦めないって言われちゃったけどぁたしは友達でいるっていったもん！！』
『秀にも言わなきゃな。』
『ょし！！電話しょぅ！！』
『今？？』
『ぅん！』

プルルル
『はぃ。』
『秀??ぁたし』
『どぅしたの??』
『ぇっと〜』
『貸して』
『もしもし秀??俺二葉と付き合うから!』
『帰ってきたら殴る。』
『ぇ〜殴られるのやだなぁ〜そんなこと言うんなら二葉んとこ泊まろうかな〜』
『ふざけんな!そっち行く』
『えっ??秀??秀〜?切られちゃった!』
『何だって??』
『今からこっち来るって!』
『何で??』
『俺を殴りに…』
『はぁ??』
『やっぱ〜』
『切れたかも〜』

第5話に続く

第5話！！喧嘩

『何でお前を殴りにくるんだょ！！？？』
『調子にのってからかいすぎた…』
『何て言ったの？？』
『俺達付き合うからって言ったら帰ったら殴るって言われたから殴られるのやだから二葉んとこ泊まろうかなって…』
『そりゃ好きな女取られたあげく、泊まろうかな何て言われたら怒らねぇやついねぇよな～』
『俺なら半殺しだな』
『バカなやつ…』
『そんなこと言うなょ！』
『どぅすんの？？』
『どぅしょぅ～』
『素直に殴られろょ』
『やだょ！』
『もぅ来るんぢゃね？？』
『まぢどぅしょぅ。』
ゴンッ　ゴンッ
『来た…』
『はぁぃ！』
『どぅしょ二葉～』
『男がぅぢぅぢしなぃの！』
『だって…』
『いってくるょ！？』
『ぅん』

ガチャッ

『秀』
『二葉。智いるょな？』
『いるょ。秀も遊ぼ？？』
『ォゥ』
『入んなょ！！』
『ぉぢゃまします。』
『みんなぁたしの部屋にいるから！』
『そぅなんだ』
『智呼ぶ？？』
『部屋居んだろ？？だったら部屋でぃ～ょ』
『ぅん。てかぁのバカ又何か言ったんだって？？ぁたしは止めないから好きなだけ暴れてぃぃょ！！ぁぃっが悪いんだしさ！』
『わかった。ぁりがと！』『みんな前と変わってないからね？！みんな悪い方の見方なんてしない。それだけはわかって？？』
『みんな俺らがごちゃごちゃになる前と同じってことか…』
『ぅん！』
『わかった！』
『部屋入ろっか。』
『ォゥ。てかぁぃっのことぶん殴ってぃぃんだょな？！』
『ぁッ足り前ぢゃん！！秀にはその権利がぁる！！入ろう！』
ガチャッ
『秀』
『死ね。家に帰ってくんな！！ボコッ』
『～～って！！ゥッセーんだょ！！いってーんだょ！！振られたくせにぁきらめねぇとかしっけーんだょ！！だせぇーんだょ！！ぅぜぇーんだょ！！ぉ前が帰ってくんなょ！！ぉ前が死ね！！ボコッバコッ』
『『『『ぁぃっ…逆切れしてるょ（笑）』』』』
『～～～～って～っ！！！！ゥッセーんだょ！！しっこくて悪かったな！！ぉ前ょり早く好きになったのに何でぉ前が選ばれんだょ！

！死ね！！まぢ死ね！！ガンッ』

『『『『死ね連発した～～（笑）しかも頭突き出た～～（笑）』』』』

『ってーな！！頭突きはねぇだろ！！バシッ』

『けんぢゃねぇよ！！ボコッ』

『ゥッセー！！二葉は俺を選んだんだ！！好きになるのに早くも遅くもねぇんだょ！！バコッ』

『そんなこと…そんなことはじめからわかってんだょ！！わかってっけど好きなもんは…しょーがねぇだろ！！俺だって好きになりたくて…好きになったんぢゃねぇんだょ…お願いだから…お願いだから二葉を…俺にくれ…他には何もぃらねぇから…ぁーチキショー！！俺ダッせ～』

『…秀…。ごめんね…』

『やらねぇょ！！やるつもりもねぇょ！！二葉が選んだんだ！！てか男が泣いてんぢゃねぇよ！！ダッさ！』

『ゥッセーょ。わかってんだょ。』

『智！それはちょっと言い過ぎだろっ！』

『ゥッセー。男の喧嘩にやりすぎはねぇ！！』

『秀…ごめんね。ぁたしは…ぁたしは智が…智の事が…好きなの。』

『わかってるょ。』

『聞ぃたか！！二葉は俺の事が好きなんだょ！！』

『わかってるょ。』

『智はぅるさぃょ。』

『はぃ。』

『ごめんね。ょし、ぢゃプリ撮り行こ！！』

『ォーィ。話かわんのはやすぎだろ！！』

『アハハハハ！！』

『遊び行こーゼ！！！！！』

『ォゥ！！ぢゃゲーセン行こ！！』
『麻耶呼ぶ！！』
『いぃぃね！！』
プルルルる
『もしもーし！！』
『麻耶？？ぁたし！！みんなでゲーセン行こ？？』
『てかその前にどうなったの？？？』
『／／智と付き合う事になりました！！！』
『おめでとー！！どこいんの？』
『ぁたしん家！！』
『ちょぅど近くぃるからそっち行くわ～下いて！！』
『わかった！ぢゃね！！』
『何だって？？』
『近くぃるから下にいてだって！！』
『そっか！下に行こ～』
『ォゥ』

第６話に続く

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n5368e/

どぅして??

2010年12月10日02時30分発行